新夫婦日記（二）

佐々木邦

第一回　縁といふ奴（續き）

翌日海岸でこの兄妹に出會した。今度は覺悟をしてゐたし、それに日高君が一緒だつたから、大に力强かつた。さうして昨日は何うも失禮致しましたと又繰返した。

『成る程、いゝねえ』

と日高君が小瀬崎の方を見ながら言つた。

『うむ、美いだらう』

と僕もその方角に眼を放つた。

それからは毎日のやうに海岸でこの兄妹に出會した。元來先方も此方も海水浴といふ共通の目的を持つて同一の場所に來てゐるのだから、到底出會はさゞるを得ない。或は後には旭々出會する樣な刻限を見計らつて、僕が日高君を誘つたのかも知れない。兎に角その都度お辭儀を交換する。追々と、

『どうも毎日お暑うございますなあ』

『こんなことなら東京にヂッとしてゐた方が餘つ程氣が利いてゐるわのことを言ふ。實に

『東京は何處でございますか？』

といふやうなことになつた。何處でございますかどころか、何うも悪いことは出來ない。この兄さんは僕の下宿からは程遠からぬ或町に家を構へてゐるのみならず、農商務省へ勤めてゐるといふから、此處ぞと思つて社交的に、

『では森といふ人を御存知でございますか？　尤も局がお違ひかも知れませんけれど』

と訊く、

『森住藏ですか？』

と聞き直す。

『はい、左樣で』

『あの男なら能く知つて居ります。同期の卒業で、同僚で、而も親友でございますからな。貴君は何ですか、森君のお身寄りでもございますか？』

『はい、實は親戚で御座いまして、保證人になつて貰つて居ります』

『はゝあ、然うでしたか。それはどうも奇遇でございましたな』

と其所で先方は名刺を出して、

『杉本に泊つてますから、晩にでも遊びにお出なさい』

と言ふ。此方は元來海岸へ名刺を持つて行くほど用意周到の男でないから、唯姓名と學校を名乘り、宿所を知らせ、次いで改めて日高君を紹介した。

歸り途に、

『おい、日高、飛んだものに取摑まつて了つたよ』

『何故？』

『何故つて、保證人の親友ぢやあ、保證人の片割れも同樣ぢやないか』

『片割れだつて宜いぢやないか敵の片割れぢやあるまいし』

『宜いものか、彼の先生が一所ぢやあ、何の事はない、この沼津滯在中は保證人から間接に監督を受けてゐるやうなもんだ。第一避暑に來たことが早晩あのやかましやの耳に入るにきまつてゐる』

『ぢあ、君は無斷で來たんか？』

『無論無斷さ。尤もその方は君が沼津で急病に罹つたから介抱に來たとか何とか言へば辯解も出來るから、一向構はないはずだ……』

『然う度々僕を鹽節にしちや困るよ』

『何あに、構はないさ。しかし實はスタンダードの辭書とレインコートを買ふからと云つて、百圓引出して貰つて來たんだから、この避暑が知れると、少々嫌疑がかゝり易い。どうも飛んでもない奴に出會してしまつた！』

『自業自得さ。しかし君も君子面をして、ナカ〳〵ひどいことをやるねえ』

『先月使ひ込んだ窮策さ。矢つ張りうつかり口は利くもんぢやないね。藪蛇にしてしまつた』

翌日も海岸へ行つて一浴び浴びて休むでゐると、假塚の兄妹がやつて來た。言ひ落したけれど、假塚喜太郎と云ふのだつた。

『どうもお暑うございますなあ』

『新聞ぢや十年ぶりの暑氣だとか言つて居ります』

『さうです。新聞では毎年近年稀だから面白い』

この邊は好かつたが、

『何うです。一つあの漁船のところまで泳いで行かうぢやありませんか』

Vol. 1 No. 4　THE TAIRIKU　SUPPLEMENT TO THE TAIRIKU NIPPO　September 20th 1931

隔週大陸

（第四號）

大陸日報附錄

編輯人　山崎寧

庭一面の雪が消えて、芝生を破つて出て來たクロカスが、白く黄色く花を開き始める頃、地上は春の訪れた聲を聞く。

人々は花の姿を見た時に、始めて陰氣な冬の去つた事を知り、胸には春の來たのを感ずる。これが若い人々にとつては戀であらう、老いたる人々にとつては若き時代の追憶である。

さて、今日はウンとくだけて、若い人々の爲めに、花の言葉を聞くことにしやう。

ローマやギリシャに於ては、花はラヴを語ると言ひ傳へられて居り、ナイルの岸に咲くバラの花はその春が來る毎に、若い人々の手に摘みとられて、悶々の胸に送られて居る、幸い役目を果して居る。

古き女王のエヂプトに、既に此の美しき伝説のあつた事は、乙女の胸には歡びであらう。歴史家は花の言葉は、始めてエヂプトに於て聞かれ、これがやがてローマ、ギリシャに及んで行つたと云つて居る。以下花の言葉を聞かう。

戀人の胸中を語る花

若人の知ねばならぬ事

X Y Z

カーネーション　愛、美、望
バターカップ　忍耐出來ぬ
キャチフライ　詭計
菊　繁榮
クロバー　望
クロカス　歡喜
コロンバイン　誠實
ダリア　優美
デージー　潔白
ダンデライオン　媚態
忘れな草　眞の愛
フューシャ　純眞な愛
アイビー　友情
ライラック　感じ易い
リリー　清淨
鈴蘭　歓喜に返る
モス　母の愛
パンヂー　感じ易い
スヰートピー　離去
ピオニー　恥羞
バビー（白）　忘却、赦免
バビー（赤）　慰安
ローズ　愛、美
ブライダルローズ　幸福
チャイナローズ　優美
モスローズ　優越
ホワイトローズ　悲しみ、不幸
イエローローズ　不信心、不貞
スノードロップ　慰安、慰藉
チューリップ　愛
バイオレット　謙遜
しだれ柳　絶交

さて以上の外に、まだいろ〳〵の花があるのだが、まづこれ位知つて置けば、折角の愛を訴へやうとして、ウヰヤーピングウヰローやスヰートピーを贈る樣な失敗はなくなるわけである。ピオニーに、フューシャを混ぜ、更にクロバーを添へたなら、きつとクロカスが贈られて來るに相違ない。戀はすべて無言のうちに眞の味がある。

古くから歐洲の百姓の間に於ては、バチエラース・ボタンが、若い人々の間に安全と幸福な愛を表徵するものとして、ポケットの中に秘められて居たさうであるが、彼等は夫を繋のこぜれない朝に、青いこの二つの花を摘みとつて、ポケットに藏め、二十四時間を經たその時まで、まだ萎れもせずになほ青々とした生氣を花びらにとゞめて居るのを發見した時、愛する彼女との結婚が、無上の幸福を産むものである、と信じ勇敢に進み行くと云ふ。だが然しそれが、無慘にも萎れて、形さへとゞめないのを發見した時、彼は將來の不幸な結婚生活を歎いて極度の悲觀に陷るのださうだ。

ツルー・ブルー――若い人々はこんな言葉を、たしかに知つて居るに相違ない。これこそバチエラース・ボタンが持つ傳說から生れて來たものである。

若しあなたが、若い友の彼氏から、たとへ不用意にもせよ、カーネーションの一束を贈られたならばその厚意に謝するだけでは足らないもの〻ある事を、知らなくてはならぬ、それはあなたに對する愛のメッセーヂであるからだ。

若し私が二ローフのブレッドを持つて居たら、一つを賣つて私の魂を養ふ爲に白いハイヤシンスを買ひたい――詩人は斯う云つたと云ふ。此の花はギリシャ附近の野の雜草の中に咲いて居たとの事であるが、十六世紀の終り頃西部歐洲に送られ、オランダは現に國產として世界に供給して居る。

アポロはある日、若き男と共に鐵環投げをして遊んで居た。アポロは此の青年が好きであつた、彼と共にある間、アポロは幸福であつた。然し斯うした二人が、仲よく遊んで居た時、風の神はこれを見ていたく嫉妬を起し、强い西の風を起したのであつた。するとアポロが投げた鐵環が風の爲めに、青年ハイヤシンサスの頭にあたり彼はアポロの腕に抱かれながら、死んだのであつた。アポロは非常に悲しんで、彼の頭からたれた血をもつて、美しき花を作つたのであつた、これがやがてハイヤシンスと命名されたと、ギリシャの神話は敎へて居る。

記者曰く――來月號にはフォーゲット・ミー・ナットについて書いて見やうと思ひます。人々の口に上る花のうちで、此れ程親しみの深いものはないであらう、全然知らない人々にとつてもその名をきいたゞけでも何かしらそこに、ローマンチックなものが含まれて居る、と云ふ事だけは想像する事が出來るであらう、その想像の如く、此の花にはダニユーブ河の堤をはさんで、實に悲劇が織り込まれて居る。何うか來月號をお待ち下さ

Questing Youth

What lies beyond the hills? you ask,
and turns toward the south,
Where the hills on hills arise
to meet the sky.
What lies beyond the sea? you ask,
and turn toward the west
To gaze across the water's blues and greens,
and watch the passing steamers
going to and from distant ports.
What lies beyond the mountains? you ask,
and turn toward
the snow-capped majesties,
first to catch the tints of sunrise,
first to reflect the glows of sunset.
They lie to the east and to the north . . .
What lies beyond them?
What lies beyond the horizon? you ask,
with eyes of wonder and romance,
eager for knowledge,
restless for adventure.

I shall find
What lies beyond the earthline and the skyline.
And you go . . .
daring dangers,
armed with only youth and courage,
and high ideals and noble aims.

Unknown perils lie beyond the horizon:
pitfalls and snares,
entangling meshes for those unwary . . .
Alluring bypaths,
Distracting attractions . . .
Corruption and failure.

I go to find what lies beyond all things.
I shall conquer.

Muriel T. Fujiwara.

金色夜叉で儲けた大枚四十二弗

ヤマト野球倶樂部の生立

偉人を産まんが爲めの必要な條件は、山は、紫に、水は清くなくてはならぬ。サテ斯うなつてきたらキチラノが名選手を産んだ原因が又こゝになくてはならぬ、と云ふ事になるのであるが、果してキチラノが此條件を備へてゐる、とは考へられぬ。

山がないのであるから、紫もない。水はあつても下水の水を落びては清くもなし、である。

では――と考へて見ると、そこには地から湧く藝術があるのかも知れない。

大正三年、北村末彌、山村政喜伊藤信一の三氏を發起人として、ヤマト倶樂部が生れる前、日進と云ふボール投げ倶樂部が出來て居た。そして五年八月には倶樂部が青年會になつて、日進月歩の世の中だと云ふので、各會員が五弗宛を醵出して、ユニフォームを作り大いに得意振りを見せたのである。此の時の幹部と云ふのが、北村末彌、山村政喜、伊藤信一、小野村三郎、南良一、伊藤準一、料治一太の諸君である。

野球だけでは甚だ面白くないと云ふので、日本人間最初の樂隊を組織したのが大正五年の頃で、早川政德君が大太鼓をブツ叩くと、伊藤信一君が小太鼓をガチャつかせる、するとそれにならつて、手島只雄、角武嘉、武良、山村政喜伊藤準二、料治一太の諸氏が、怪しげな音をたて、笛を吹く、と云ふ盛んさで、浮田領事が赴任した時には、天晴れ、キチラノの歓會の招待會に興を添へるつもりであつたらう、此れ等名樂手が、ブカ〳〵ドン〳〵とやつたものであるから世辭の上手な浮田さん、すつかり感心した樣な顏付で、大いに賞讃したものである。庭の片隅からとり出して來た竹かゝつた棒を握つた山村政喜君が、カンダクターとして、遂りかまわず振り廻したのも此の時である。

扨て此の名樂手達も、慾がついて來ると、象牙の塔にばかり籠つては居られない、と云ふので街頭に飛び出して來た。ビクトリーボンドの募集に際して、さすがに今から考へると、珊かしかつたと云ふ程に、ピー〳〵ドン〳〵と行列をやつたのである。

大正九年四月、會員のうちに、大分少年が加はつて來たので、時代の風潮に押し流された形で、老人連が若い者に席を譲り、少年野球部を組織して、自分達は、と云ふと、まだ年老てもこの元氣であると云ふ所を示したのであらうタイガーと云ふ文字をユニフォームに黑く染めて『うぬ負けるものかッ』とやり出したのである。

此の猛烈なタイガーにも、なまめかしい一面があつた。少年野球部選手が、新しいユニフォームを作らなくてはならぬ、とあつては自ら馬を陣頭に進めなくてはならぬと云ふので、演藝會を催しにわか作りのお宮が、これもにわか作りの貫一に『そりアあなた邪推ですわ、あんまりですわ』と、とりすがる一場面をやつてのけて罪のない人々の涙を絞らせ、この時の純益四十二弗を投じて、彼等若人の元氣を百倍させたのであつた。

ローイ、義一、準一等今の名選手は、いはゞお宮さんの慈悲に負ふ處大であると云ふわけである。

大正十年四月からは、第三街聖公會日曜學校代表チームとなつてサンデースクール・リーグで活躍し、ヤマトは名の野球ファンから忘れられて仕舞つた。

忘れられたとは云つても、現役の名選手を、二人迄モみ出した、この功績は、永久に消ゆぬ事であらう。健治は、弟の末記程の人氣はなくても、ターミナルに於ける抜群の成績を占め、彼も又ヤマトの實家の名を擧げて居る。名選手をうひ、豊山紫水明を要せんやである。運を見よ。キチラノ在住者諸君の誰か、此の事實を否定する者があらうぞ。

チャプリンの諧謔

ホテルの主人を驚かす

諧謔と云ふものにも、いろ〳〵あるが、トゲのあるものを除いた所謂ユーモアなるもの程、愉快なものはない。

あの有名な喜劇俳優チャプリンが、フランスへ行つた時の事である世界の人々を笑はせてゐる恩に報ゆる、と云ふ大きな意味で國賓としての取扱ひを受けて、素晴らしいホテルの一室を與へられた。

此のホテルには、何んでも外國の王樣や大統領などが泊つた事があり、その爲めに特に金製の食器が一組揃つて居る。

食事の時間が來ると、ホテルの主人は敬々しくチャプリンを食堂へ案内して、金の食器の前に坐らせながら、御披露に及んだ。

此の食器では外國の王樣を始め大統領などがお召上りになりました由緒の深いもので、國賓の方々だけに用ひて居りますもので御座ります

ホテルの主人にして見れば、チャプリンに、一言感謝の言葉を貰ひたかつたに相違ない、がそこを胸に感じた彼は、愉快な笑顏の中で頭を下げて云つた。

『いや有難ふ、どなたがお上りになつても、洗つてありさへすれば結構ですよ』

A・B夜話（上）

―襲撃から再刊まで

磯川一馬

エー　今晩は！

ビー　やア！　珍らしいお客さんだね。近來サッパリ顏を見せぬから如何したかと思つて居た。

マアかけたまへ

エー　近來の大陸日報は社會奉仕と云ふか、讀者奉仕と云ふか、なか〳〵勉强しますね

ビー　全くあの隔週大陸を見て實際感心してゐる譯サ、よく新聞社といふものは、色々の計畫をして儲けたものだが、あの隔週大陸には一時の廣告も入れてない、つまり純然たる讀者奉仕だね――

エー　九月から月二回だと云ふ事ですが、なか〳〵手數もかゝり經費だつて容易な事ぢやないと思ふが、よく出來る事と思ひます。なんでも九月號には『苦勵十二年の回顧』と云つて、義勇兵募集から選擧權獲得までの事情を發表するとの事でしたが、私等の樣に、最近渡加した者には當州の樣子を知ると云ふことは、非常に興味をもつて待たれる問題だと思ひます。隨分色々な事件もあつたといふことですが、ビーさん等は、その當時晩市で活動したといふから、少し像備知識を仕入れに來た譯です何か面白い話を聽かせて下さいませんか

ビー　あるね……、トテもあるさ。君等は最近の人だから御存じあるまいが、恐ろしく面白い話があるよ。何しろ今から思ふと隔世の感があるからね……、あの時代でなくては見られぬ事、晩市でなくては聽かれぬ話などが、幾らでもあるよ。マア……お茶でも入れて飲みながら話さうではないか

エー　さつきお話しした像備知識と云つても表面の事は隔週大陸で見るとして、裏面と云ふと語弊がありますが、あまり知られてない記錄などに幾つてゐないような話を聽き度いんですね

ビー　マア！　面白い話といふとその邊だらうサ、何分同胞史の時黑時代だ、はれた時の事だから話をすれば限りがない。一寸一晩や二晩で片付きさうもない程あるがねー

エー　然うですかね……何でも今の加奈陀新聞の前身『加奈太新報社』が義勇兵諸君によつて襲撃せられたといふ事を聽いて居りますが、本當にあつたことですか

ビー　大ありさア！　トテも勇敢にやつたね。傍で見る者をして慄然を感ぜしめる本當に鬼氣迫ると云つた程ひどいものであつたよ、忘れもせぬ大正五年三月十五日の夜、裏と表から二タ手に分れて襲撃したよ、マア！義士の討入といつた形だね

エー　ハア……、やつぱり事實ですね、それで大分破壞しましたか？

ビー　休刊二週間餘と言つた程度であつたがねー、工場破壞を擔任した裏口の連中が、其の昔平家の軍兵みたいに、水鳥ならぬ電氣モーターの發した響音の爲に驚いて『それッダイナマイトだ！』とばかりに引上げたのでそれ位のことで濟んだ譯でね……それが後で考へると、よつぽど抱腹ものさ、なんでもモーターをかけて印刷機を破壞する計畫だつたのだが、スイッチをかける際に、弱から强といふ風に二段になつてゐる奴を、イキナリ强流の方へかけたからタマらぬ、恐ろしく大きな音響と共に電の如きスパークに驚いて退散したものだよ

エー　ヘエ！　驚いたでせうねー襲撃に對して多少準備が出來てゐる位には考へてゐたのでせうから、驚いたのも無理はありませんね、新報社側でも襲撃のあることは判つてゐたでせうに――何も防備などはなかつたんですか！

ビー　なかつたねー　印度の聖人ガンヂーではないが、無抵抗主義だつたね。もつともそれは義勇兵問題に就てだけではあるが以前から、反日會の機關紙として幾大の筆をふるつては呂たけても、一切筆に口に發表を慎へて呂たのだがねー、一寸した事（記者注加奈太紙が義勇兵を僞勇兵と書いた日に襲撃されたので、つまりこれが直接の動機となつたわけである）を機會に、襲撃されたと見る方が、よからうと思ふのだが、委しく話せば、なか〳〵深く廣く以前からの色々な問題にふれて來るから手取り早く言つて置くが、日會派の所謂第三期で崩壞せんとする最後の激震であつたと思つて居ればよい。此の襲撃を劃時として、すつかり情勢が變つて來たからねー、それで前もつて襲撃を知つてゐたか何うか、と云ふ事であるが、二三日前から其の計畫がある事は社内でも皆知つて居たサ！殊に其日などは朝から情勢は緬の齒を引く如くであつたよ、それに就ては社内でも色々相談したのだが、結局は彼等のなすがまゝにする事に決定して、只警察へは事情を通じて置いて、警察の保護に一任してあつたので、何等の防備などもして置かなかつた。其日は朝から警備の査公を派して居たが殊に夕方からは多數の警官が出張して來ると云ふ有樣でね

エー　多數の警官が居て且つ襲撃されたとは又妙ですねー。

加奈陀同胞發展秘錄

特價　廿五仙

殘本が數部あります、此際至急御申込の方に右の特價で差上げます。

移民地物語

地震

地方々々で異つた呼び方をしてゐると云ふ事は、やむを得ないことであるが、僕の方では、風でも引く前に「ブル～ッ」と來る、これを『ふるい出し』と云つてゐる。尤もこゝでは、別にこの『ふるい出し』が『たらい出し』になつたつて、これから話さうとする話とは關係がないのであるから『イヤ俺の方では……』なんて、憤慨される方々のない樣に、豫めお斷りしておきたいのです。

さて、こゝいらで本筋に入る事にして――こゝに一人の立派な紳士があると致しませう。彼は日本の商商を卒業して、當市に來てゐたのであるが、ある用件を帶びて多年懇意にしてゐるらしい、マクビルさんの家を訪問したのです。

ドアーにはスコッドランド人が特に自慢の一つにしてゐる、サテ何て云ひますかね、致し方ない『ドアーたゝき』とでも云つておきませうか、それがついてゐるんです。日本紳士は、慣くそれを叩いたんです。あんまりいゝ音のするものぢやありませんが、結構マクビルさんの耳に達することの出で來るものでした。

「オー・ハウ・アー・ユー」とマクビル夫人が、大きな體をたいぎさうに運んで來て、紳士に聲をかけたんです。

「ファイン！　ファイン！」紳士は手を差し出しながら、二度斯う繰返しました。

さて、心を靜めてつて、別にナニ、フロアーの上を、ぬたり～と大蛇でも匍ひ出して來た、と云ふのではありませんから、そオまア、二人の會話を、盜みぎゝする程度で差支ないのです。

天氣がいゝね、ビーチへ時々行きますか、泳ぎは上手ですか、子供さんは丈夫ですか、お國から賴りがありますか、――等々、二人の間には、おざなりな會話を交換してゐるんです。人間と云ふものは、と云つた所で、僕だつて人間なんですが、實におかしいものでして、確んにクシャミをやり出した紳士に向つて『お風邪でも引いたんですか』つてマクビル夫人がきいたんです、すると紳士は、門口で云つた元氣のいゝ『ファイン！ファイン！』はすつかり忘れて『どうもさうらしいので……』と云つてしまつたのです。そこで夫人は一寸お氣の毒だ、と云ふ樣な顏付をして『御氣をつけなさいよ、近頃は惡いカゼが流行してますから』と云ひました。まア紳士も、かう迄同情されては、體の狀態を說明しなくてはならない、と思つたのでせう、なんでも寒氣がして時々ふるい出しが來るので、それを說明しやうと思つて、頭の中で文章をつくつて見たのですが、うまく行かなかつた所へ、マクビル夫人から、やたらに、氣をつけろだのこんな藥がいゝのだのと、云はれるものですから、その度に文章は滅茶苦茶に、こわされて仕舞つたのださうです、で紳士の方もあはてたのでせう、とう～云ひました、

『ユーノー……サムカインド・アースクエック』

いや何うも面白かつたんですよ。

マクビル夫人も、おかしかつたには相違ありませんが、何しろ相手が、日本人のうちの一流紳士ですからね、まさか大聲をあげて笑ひも出來ず、アノ凄かつた關東の大地震を想像したらしい素ぶりをしてね

『オー・アイシー……ツーバッド～～』

斯う云ひましたよ――小村君は語り終へると、ハッハ……と輕く笑ひました。

餘計な事ですが一言附け加へます。小村君は高商を卒業した立派な紳士であります。登城人物が餘りによく似て居ますので『紳士と云ふのは君の事ぢやないかね』

ナニお互に友人の間柄ですから、斯う突ッ込できいて見ました。すると彼は『何うもあんまりよく似て居るんで誤解される心配があるので、實は今迄内密にしてゐたんだよ』そしても一度『ハッハハハハ』と笑ひましたよ。

キッスは良いか惡いか

英米兩國學者が大論戰

英米兩國博士の『キッスの何否如何』の論戰が今歐洲を騷がせてゐます。片や英國の醫師ジョーシア・オウルドフ井ールド博士、片や米國ニユウジャーシー州ニユヨーク市の保健委員チャールス・ヴオーガン・クラスター博士、しかもクラスター博士は、女と弗の國からキッス反對の爲めにわざ～英國に押かけて來たが、オウルドフ井ールド博士はこれまた貴族的な英國人に似合しからすぐつとくだけたキッス肯定論者――といふよりもむしろキッス讃美論者である、博士はいはく

キッスは自然なものである、しかしてそれが完全なるものであるに限り常に健康的なものである。たとへばある若い女性が余にキッスする、それが完全なものであれば彼女と余は純良にして健全なるある種の微生物を交換する。故に余は次の如く主張する。我に多くの健全なるキッスを與へよ、キッスをかはす男女において健康的である限りそれは有害ところかへつて吾人の身體に有益なるものである。

と但し博士のいはゆる『完全なるキッス』とはすこぶる科學的な內容を有するもので一、愛、二、尊敬、三、熱情の三者を含むべく、この內のいづれの一つを缺いても博士のいはゆるキッスの定義に外れるとはむづかしい話。

開拓時代物語

ステヴストンの卷（四）

病院新築さる

少し枝路に入つたが、已に前回に於て述べた樣に、會堂を兼ねた病院の經營は、益困難を加へて來るのに、病人の方は何うといふと、漸次その數を加へて來る、といふ樣な悲慘な狀態で、負債の方はだん～額を增し、最早どうにも動けなくなつてきた。だが然し、どんなに困つて來たと云つても、いまひし～と病んでゐる同胞を見ては、棄てゝ置くわけにもいかない、そこで一八九七年、明治にして三十年の七月三日、遂に漁者大會となつたのであつた。

大會に於ては、贊否何れも大に力を入れて論じ合つたが、然し結局は

日本人の名譽の爲に、何うしても存續せしめなくてはならぬ

といふ能勢辰五郎領事の意見に一致し、こゝに婦人團の活動となり、檄を飛ばして寄附募集にかゝり、維持經營に向つて全力を盡したのであつた。

影響は可なり遠い地方にも及んで行つた。不便ながらも多額の寄附金を集める事に成功し、これに有栖川宮殿下からの御下賜金をも加へて、これで一切の負債を償却すると同時に、こゝに病院新築案の提出さるゝ迄に至つたのであつた。驚くべき發展である。

だが然し、この發展に對して、直接關係を持つたのは新西院であつた。何故晩香坡が、これにあづからなかつたか、これには先づ、リッチモンド區の發展史を繙かねばならぬであらう。がこれは本項の終りに出來得る限り詳細に記す

る事として、こゝではたゞ當時新西院が、フレザー河を通じて、ステヴストンとの交通を助けてゐたのに反し、晩香坡への道路が、未だ完全でなかつたといふことだけを記して置かう。

扨て病院を建てる用材を新西院ブルネット製材所に交渉して購入し、當時ステヴストンに在つた千葉縣人太田氏を棟梁に、全同胞漁者を臨時大工に仕立てゝ工事を開始した此れが卅三年の事であつた

用材は小舟でドシ～と送られて來る、當時新西院からはテレホン號が、晩香坡からはダンズミアー號が、各客船としてステブストンへ通つてゐた程であるから、これを以て見ても、如何にこの地が重要な地とされてゐたかゞわかるであらう、そこへ日本人によつて新しい病院が建築されるといふのであるから、外界に於ける噂と云ふものは大したものであつた。內容に就いては第一年度報告書中の一部を借用する事が便利であらう

始めまだ團体の組織せられざる時に當つてや、僅かに日本人教會なる名義の下に一小屋を構へ患者を收容し、療養を盡したりと雖も、素より完全なるものにあらず、且つ其經費の如きも年々毎戶に向つて應分の寄附金を待つに過ぎざりし……中略……

予輩は完全無缺の病院を建設せんと欲し地を市の東北三丁の處に定め七百弗を投じて二エーカーの畑地を購入し、六月十五日を以て工を起し、經營玆に四旬遂に七月二十三日を卜して落成式を擧行し、前記教會內に於ける患者を之に移し、醫師には醫學士バーネット、看護婦にはミス・アルコーン及びミセス・ゴーンの兩名を雇聘し、更に三名の邦人看護婦をして助手たらしめ尙外に一料理人、一掃除番及び一洗濯人を傭ひ、通常は日々出勤して入院及び外來患者の容態を醫師に通譯する等玆に全く病院として遜色なきものを建設しぬ、今其構造を略記せんに家屋は一の平家建にして、屋上高く扁額を掲げ英字をもて『ヂャパニース・ホスピタル』と大書してあり（下略）

バーネット氏は現在晩市に於て一流の婦人科醫であり、モントリオル病院から～ッド・ナースの地位を棄てさせて電報を以て招聘したアルコーン嬢は、ミセス・バーネットとなり、バーネット氏は一季入百弗の報酬で、その間半日を病院に詰める約束であつた。

漁團の創立

扨て右の樣な次第で、病院の方は兎に角出來上つたのであるが、此の頃ステブストンに在住してゐた漁者と言ふのは、日白土人を合せると一萬を越ゆると云ふ狀態で白人側では既にユニオンを作つて互の福利增進を計つてゐたが、お

ユニオンといふやうなものはなかつた。

此の樣に日本人漁者の增加と共に、白人のユニオン側に於てもたゞ自分たち丈けの團結では、目的を達する上に困難を生ずる樣になつてきた、そこでユニオンへの加入を申込んで來たのであつた。

ユニオンから此の樣な申込を受けたのであるから、日本人側でもどうにか返答を出さなくてはならぬ、と言ふので同志を集めて下相談をし出したのが同三十三年三月の事で、元々『フレザー河漁者團体』といふものがあつたのであるから、相談は急轉直下的に纏まつて愈組織することに決定し誰か一切の事務を執つて臭れる者が必要であるといふので、當時ビクトリアにあつた山崎盛氏を招聘することになつて同氏の着任を見たのが同年の五月七日の事である。

◇

記者曰く――來月十日發行の第五號では大倉喜八郎氏の寄附金一弗を中心とした喜劇的な問題に入ります、更に同胞島流しの件も近づき、いよ～活劇を演じて參ります。

に出來てゐた團体以外には、所謂ユニオンといふやうなものはなかつた。

ユニオンから此の樣な申込を受けたのであるから、日本人側でもどうにか返答を出さなくてはならぬ、と言ふので同志を集めて下相談をし出したのが同三十三年三月の事で、元々『フレザー河漁者團体』といふものがあつたのであるから、相談は急轉直下的に纏まつて愈組織することに決定し誰か一切の事務を執つて臭れる者が必要であるといふので、當時ビクトリアにあつた山崎盛氏を招聘することになつて同氏の着任を見たのが同年の五月七日の事である。

◇

苦闘十二年の回顧【二】

出征より參政權獲得まで

南亞戰爭の起つた明治三十三年西暦にして千九百年、當時の荒武者を以て自任して居た同胞は、正義と獨特的愛に燃へて、ボーアの軍隊と戰跡を絡けて居る英國軍に參加せんとし、時の清水領事に熱烈なる希望を開陳して、その手續方法を研究して居る間に、婦人會員は自ら起つて義捐金を募集し、英兵の爲めに慰問の品を送つた事がある。これが加奈陀にあつた同胞が、最初に拂つた英國に對する具体的忠誠の表現であらう。

かくて大正三年の初夏は來た。墺國に對する多年の宿怨は、遂にセルビアの一青年によつて具体化し、墺國皇儲の暗殺となつたのであつた。此の一青年の投じた彈丸は、やがて世界大戰を誘導し、大正三年八月四日英國も又その渦中に身を投じなくてはならぬ運命に際會したのであつた。

英國が兵を戰場に送る樣になつてからは、獨り東洋の天地でこれを傍觀して居た日本も、大正三年八月廿三日午後六時締盟國の故を以て、東洋に於ける英國の利權擁護の爲めに起つべく餘儀なくされたのである。かくて長い親交を保つて居た日獨は、青島を舞臺として戰ひを開始したのであつた。

此の樣にして、日本が英國の爲めに起つに至り、日加の關係がこの密度を加へ、加奈陀にあつた同胞の血を湧かしたのであつた。

英國が起ち、日本が之れを援けるとなれば、當然銃をとらなくてはならぬ時が來る、斯う觀じた當時の日會に於ては、直に役員會を開催して、義勇兵として加奈陀の軍隊に參加する一切の研究を始めたのであつた。これが大正三年八月十日の事である。

日會評議員會が福木、永尾、駿田の三氏を起草委員に擧げて

『貴政府は陸海軍に對する我等の兵役服務を認めせらるゝや伺ひたし』

と云ふ電報をオタワ領首相ボーデン氏に送つたのは、翌十一日午後四時の事で、早くも十五日には左の如き廣告を新聞に發表したのであつた。

日本人にして加奈陀陸海軍義勇兵に採用せらるゝや否や未だ交渉中にして確定せざるも、豫めこの樣に志願者の數を知る必要有之候間有志者は姓名住所年齢身長を添へ本會迄御申込有之度此段廣告候也

大正三年八月十五日　加奈陀日本人會

此の樣にして加奈陀政府に問合せて居る一方、日本政府の意響も聞かなくてはならぬと云ふので、八月十六日、山崎日會長は當時の首相大隈重信伯に對し

帝國に軍籍を有する在留民にして英國々旗の下に義勇兵として從軍差閊へなきや伺ひ申上候

と云ふ電報を送つた、が然し此の頃既に日會へ申込んで來た義勇兵應募希望者は十數名に上り、中には血判迄して來ると云ふ樣な狀態であつた。

外務省から領事館を經由大隈首相からの返電は

像後備の軍籍にある者にして官職（准士官及下士を含む）を帶びざる者は歸化により國籍を喪失する

と云ふのであつて、事實上差閊へないと云ふ事になり、ボーデン首相よりも採用には決定せざるも

『厚意を謝する』

旨の返電があつたので、大正四年十二月十五日日會は役員會を開催して委員十名を擧げ、募兵遊説に決しその教練費は役員その他の寄附を以て補充する事として、同月二十一日義勇兵募集の廣告は新聞紙上に掲載されたのであつた

義勇兵募集

歐洲大戰の局面は其展開と推移と共に豫測し難し我が締盟國たる英國は夙く既に戰ひを宣し領屬加奈陀は現に軍國多事の秋にあり在留邦人中熱血の士は昨夏開戰早々身を挺して從軍を志願せしと雖も機熟せずして之が實現を見ざりしが今回當地軍當區當局者は本會に交渉を開始し切に邦人義勇隊編成を勸誘し來れり惟ふに加奈陀の國難に際し吾公の誠意を文す事は朋輩に伐邦家に報ずる所以にして又一面に於ては在留邦人の地位を向上し利福を會進する上に於て千載一遇の好機たり

前に本會は役員會の決議を經て諸般の準備に着手せり或司の前金と呼外に於ける日本民族の發展の將來を念ふの士は此際無つて進は募り以て在留邦人の本分を發揮されん事を熱望す

加奈陀日本人會

越へて大正四年も終らうと云ふ十二月廿六日午後二時、在留民大會は日會主催の下にオレンヂ・ホールに於て開催されたのであつた。

山崎會長司會し、當時雄辯家を以て自他共に許して居た松枝與四松、尾家朋三、胎中楠右衛門、北澤源次郎、吉江三郎の五氏が破れる樣な拍手を受けて熱辯を揮ひ、正に閉會を宣せんとした時、有志を代表して壇上にかけ上つた井上博氏は左の決議文を朗讀して滿場の贊成を得、これを日會に送つて更に激勵する所があつた。

決議文

歐洲大戰は幾多の曲折と波瀾を經て併も今後の展開は豫想し難し加奈陀が戰局の餘波を受け兵馬を動かしてより一年有半機竟に熟して軍當區當局切に邦人の義勇隊編成を慫慂し來るに會す此時に方りて邦人が奮然蹶起奉公の至誠を表示する事は締盟軍國の士氣を鼓舞し人心を激勵する所以にして併せて民族發展の將來に多大の好影響を齎すべき千載一遇の好機たらずんばあらず加奈陀日本人會が最善を盡くして本問題の爲めに掌腕するは洵に機宜を得たるもの吾人は飽迄此目的貫徹の援勢に努力せんことを期す

十二月廿六日

晩香坡在留日本人大會

雪溶けのあと

山本倫由君逃亡の巻

ロッキー近い鐵道ギャングの雪も、夏を待たずに溶けて行く——此の脆く可き事實の前に、すつかり怖げ込んだのが、山本倫由君だから面白い。尤も山本君にしたつて、ロッキーの夏を經驗してはゐなかつたにしろ、そこの雪が永久に溶けない、なぞと無暴な斷定は下しては居なかつたのに相違ない。

『いけねエノ——』

大釜の蓋をとつて見ると、又中の米は半炭になつた。飯を炊くのが自分の仕事ではあるが、幾度かの失敗に、若氣の腹をたてゝ、むか〳〵して居た山本君だ。費食の時間には、もう間もない。

『おいコック、又今日もか』

斯う怒鳴りちらされるにきまつて居る、それを思ふと、陰鬱にならざるを得なかつた。

大急ぎで釜の飯を深い雪の中に埋めておいて、新しい米を洗つて漸く火にかけた彼は、ホッとして側のチェアーに腰をふゝした。

幾度となく、同じ事を繰返して居る彼だ、安心した胸の中には、雪の中に埋もれて居る半炭になつた飯の樣に、ぐつぐつと煮詰まつた事が、ぐるぐると渦巻いて居た。

ハーッと身震ひした彼は、頭をやけにふつて立ち上つた。その足は幾り少なくなつた百斤俵の前に置かれてゐた。

いつかは、はれるにきまつてゐる。利にさといボスの事だ『イヤなくなつて行く米櫃をのぞき込んで、こんな事を云ひ出すにきまつて居るその時に、責任は免れるにしても、困つた事になるわい、さう心配し出したのであるが然し、存外半氣で居るボスの顏を見ると、おかしくなる前に恐ろしくなつて來た。

こんな樣な空氣の中でやがて冬が去らうとして、一寸二寸と高く積もつて居た雪が溶けて行く、深く地の奥底迄も埋めた善の半炭へ飯が思ひがけなくも顏を出して來た。氷きつた土を掘つて埋めるには、まだ春が淺い。一寸々々と、まかり間違へば、露顯すると同時に、首になるにきまつて居る、氷の上を歩く樣な生活に、山本君もいさゝか閉口させられた形である溶けるなら溶けろ——太陽を仰春が來るなら、山本君の度胸にかゝわりなく、溶けて行く。やはり度胸で、暫らくの間を忘れて居た地面の雪は消えて、ふくれ上つた山の樣な半炭になつた飯が、庭一パイに露はれて來た頃、山本君は『家事の都合』でそこを引上げて居た

『アッハッハ……』

思ひ出すと今でも、たまらなくおかしいと云ふ。おかしくないのが一人居る。

『訴へられたつて君、時効にかゝつてゐらアね』

山本君は涼しい顏をして居る。

譯のわからぬ話

譯のわからない、と云つてこれ位譯のわからない話つてないだらうと思ふ——と彼は一息ついて、獨逸で或知人の宅の晩餐會に招かれた時であつた。この家の奥さんと云ふのが、非常に猫が好きで、猫の方でも、可愛がつてくれる者の顏をよく知つて居ると見ひて、いつも側を離れないと云ふ有樣です。

何しろテーブルの上には、山の樣に御馳走がのつかつて居るのだから、鋭い猫の鼻は、ぐゝ〳〵うなつて居ました。

食事が半終ると此の奥さんは、ご自分の皿の中に、僕等の食ひ殘した御馳走をかき集めて、そのまゝフロアーの上に置いて猫にやつたんです。

その時はきたない事をするなアと思ひましたけれど、まア默つて居ました。それから後三四回招かれましたが、矢張同じ樣な事をするんです。猫に食はした皿で、僕も御馳走になつて居るのかも知れない、斯う思ふと、何うも折角の御馳走が咽喉へ入らないのです。

とう〳〵僕は失禮だとは思つたがナニも勉强だと思ひまして、きいて見ました。

『奥さん！　西洋では猫の茶碗と云ふものがないのですか……』

僕も少しぶしつけだつたと見ひて、奥さんは變な顏をして『何うしてゞすか』つてきゝかへしました。

『でも何處へ參りましても、みんなの食べた皿で猫に食べさせて居ますからね……』

すると奥さんは『それがあなたに不思議に思はれるんですか』つてきくのですよ。

『日本では猫には猫の皿がありまして、奥さんは變な顏をして『何うしてゞすか』つてきゝかへしました。

『洗つてもさたまい樣な氣持がします、何うも私共にはきたない樣な感じがしますよ』

『洗つてもさたまい樣な氣持がします』

『そりやおかしいぢやありませんか、あなたのお上りになつて居る皿やフォークだつて、どなたか外の方がお上りになつていたんですよ』

云はれて見れば尤もな事です、だが感じは矢張りきたない、けれど共いくら説明しても、日本人の氣持がわからない獨逸人に、實は哀想をつかして、この話はこれきりにして、それから英國へ渡つたんです。

英國で矢張り知人の宅へ招かれた時に、このドイツ人の話をしたのですが、その英國人は

『そりや、ドイツ人が間違つてゐますよ』

斯う云ふのです。さすがは英國人だ。同盟國人だけあつて、日本人によくその氣持が似て居るなアと感心したんです、で僕は大いに嬉しくなつて

『でもあなたは何うしてドイツ人が間違つて居るとお思ひですか』

斯うきゝかへしたのです。するとその英人は、何氣なく——たかが汚れるぢやありませんか』

『洗つてもさたまい樣な氣持がします』

『そりやおかしいぢやありませんか、あなたのお上りになつて居る皿やフォークだつて、どなたか外の方がお上りになつていたんですよ』

云はれて見れば尤もな事です、だが感じは矢張りきたない、けれど共いくら説明しても、日本人の氣持がわからない獨逸人に、實は哀想をつかして、この話はこれきりにして、それから英國へ渡つたんです。

英國で矢張り知人の宅へ招かれた時に、このドイツ人の話をしたのですが、その英國人は

『そりや、ドイツ人が間違つてゐますよ』

斯う云ふのです。さすがは英國人だ。同盟國人だけあつて、日本人によくその氣持が似て居るなアと感心したんです、で僕は大いに嬉しくなつて

『でもあなたは何うしてドイツ人が間違つて居るとお思ひですか』

斯うきゝかへしたのです。するとその英人は、何氣なく——たかが汚れるぢやありませんか』

『そりやアあなた、カーペットが